

道徳科における問題解決的な学習を取り入れた実践

I 学習指導案

- 1 主題名：役割を果たす C- (15) よりよい学校生活、集団生活の充実
- 2 ねらい：自分の果たすべき役割を自覚し、目指す目的に向かってお互いに協力し合い、励まし合える集団生活の実現に努めようとする態度を養う。
- 3 教材名：「ロコ・ソラーレ」メダルへの挑戦（学研教育みらい「明日への扉」1）
- 4 主題設定の理由：生徒の実態 学習指導要領の内容 教材を活かした学び方

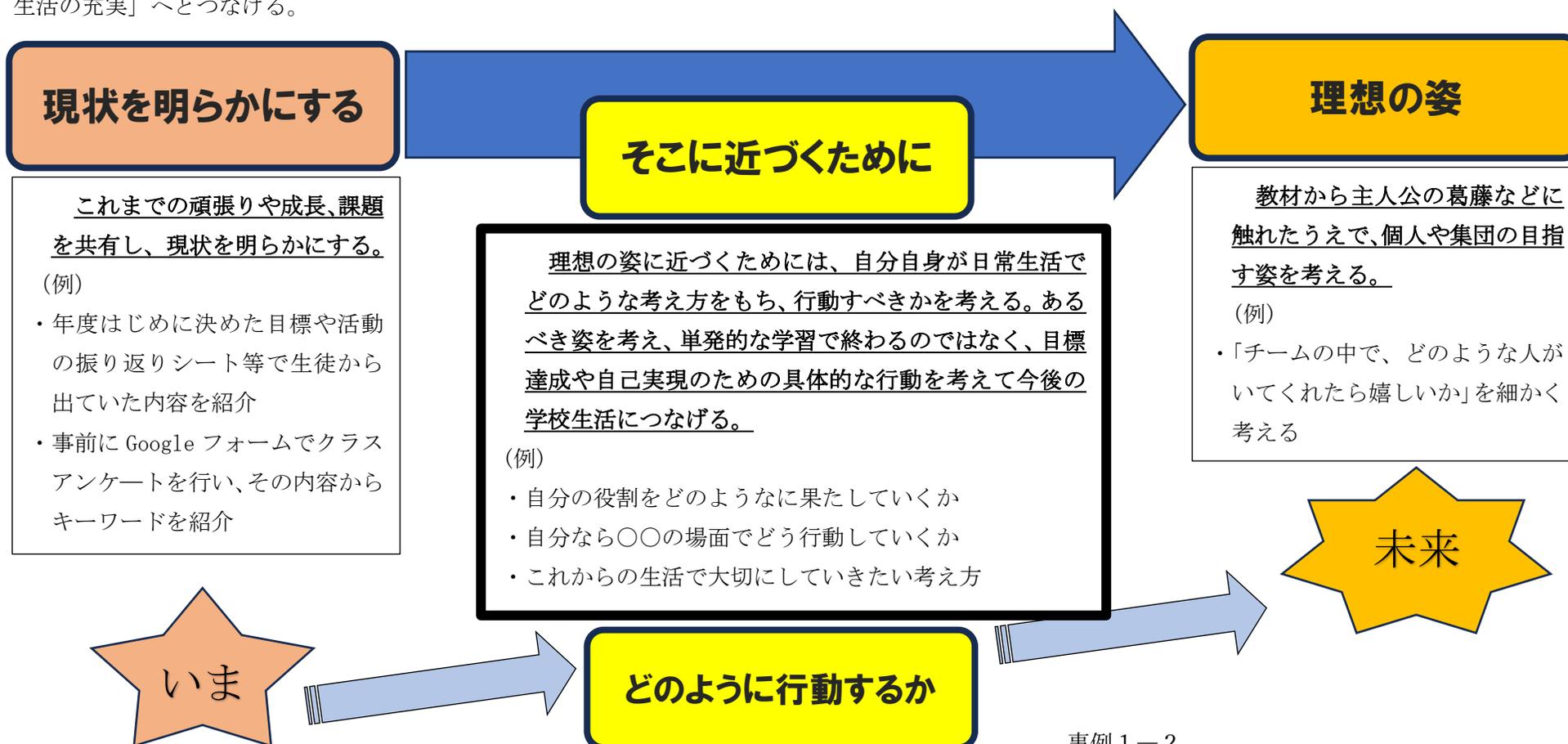
今年度、中学校生活がスタートしてからの体育祭や文化祭、合唱コンクールなどの行事を通して、クラスで目標に向かって取り組むことや努力することの大切さや充実感を体験することができた。今後さらに自分自身とクラスや学年、学校全体が高め合っていくために、集団と自己の可能性について考えることが大切だと考える。今回は、集団の中で自己の役割と責任を自覚し、高め合い、尊重し合えるチームを求めていく姿勢を育むきっかけとさせたい。

指導の要点として、自らの所属する集団の目的や意義を理解するとともに、個人力を合わせチームとして取り組んでこそ達成できることなど、集団の在り方について多面的・多角的に考えられるようにすることが大切だと示されている。LS 北見「ロコ・ソラーレ」というカーリングのチームに所属している本橋麻里選手とその周りの仲間との活動の中で、チームとしてお互いを尊重し高め合っていく。「理想のチーム」や「目指したい姿」を考えさせる際、その意見の共有ツールとして「FigJam」を活用する。橋本選手自身が試合に出たいと気持ちとチームで勝ちたい気持ちの両方に考えることで、葛藤する気持ちに触れる。チームにとってどのような思いや役割があるとよりよいチームにつながるかを自分ごととして捉え、今後の学校生活につなげたい。

【道徳科における問題解決的な学習】

学習指導要領解説「特別の教科 道徳科」では、「問題解決的な学習は、生徒の学習意欲を喚起するとともに、生徒一人ひとりが生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決し、よりよく生きていくための資質・能力を養うことができる。生徒が問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を追求し、多様な感じ方や考え方によって学ぶことができるようにするためには、指導方法の工夫が大切である。」と記載されている。

本時では、個人や集団、チームなどのさまざまな場面で目標や目的を考え、その実現や達成に向かって努力することで成長につながる。今回、教材を通して主人公の「現状」と「理想」、「そのための努力や葛藤」に触れた後、自分ごととして考え今後の学校生活につなげた。自分たちの現状と理想（目標）、その姿に近づいていくために生活の中でどのようなことが大切になるのか、自分ができることや果たすべき役割は何かを考え、「よりよい学校生活、集団生活の充実」へとつなげる。



6 展開

| 学習活動 ○基本発問 ◎中心発問 | ・支援と留意点 *発問の意図 ☆評価の観点 |
|--|---|
| <p>1 事前に行ったアンケートの内容を紹介する。 「よいチームとはどのようなものですか」について</p> | <p>・授業前に FigJam にログインさせ、スムーズに進められるよう準備する。 ・4人班の隊形にして始める。</p> |
| <p>チームの一員として、よりよいチームをつくるには何が大切か考える</p> | |
| <p>2 教材の範読を聞いて、話し合う。 ○リザーブに回った本橋選手は、どのような思いで取り組んでいたでしょう。</p> <p>3 チーム内の役割について考える ○「チームにどんな人がいたらいいなと思いますか」 （「FigJam」に付箋入力する） →内容を共有する</p> <p>◎チームの一員として、よりよいチームをつくるには何が大切なのでしょう。（プリントに記入する）</p> | <p>*範読の前に、主人公の本橋選手の「はじめの思い」と「理想の姿」、「そこに近づくためにどのように考えていたのか」について捉えながら読むことを伝える。 *自分の思いと集団で目指したいものに対しての葛藤について考えられるようにする。 ・全体の意見が偏っていた場合、「最も経験がある本橋選手が試合に出た方がよいと思いませんか」等の揺さぶりをかける。</p> <p>*学校生活の中でのチームは、どのようなものがあるか問いかける。 *集団の中でのあるべき姿や理想像につなげさせる。 ・個人の考えを共有しさまざまな考えに触れるために、「Fig Jam」を活用する。 ☆集団の中の役割について、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。</p> <p>☆自分自身の所属する集団に置き換え、集団の中での自分の役割や責任について考え、自分の行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目しようとしている。</p> |

7 本時の評価の視点（解説から抜粋）

視点1 <多面的・多角的な見方・考え方>

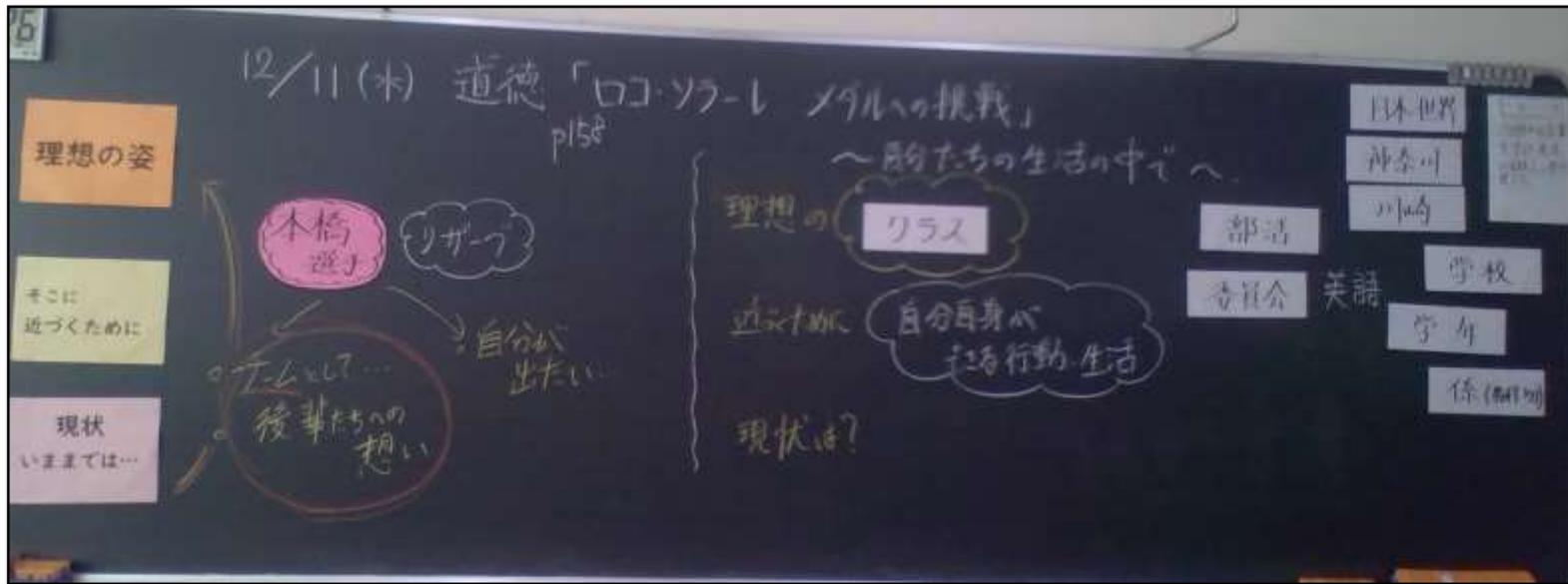
自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていることに着目する。

視点2 <自己を見つめる>

教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する。

現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目する。

8 板書計画



II 授業記録

T：本日のテーマは「チームの一員として、よりよいチームをつくるために何が大切かを考える」という内容です。また、考えるポイントとして主人公の「現状（いままでは…）」「理想の姿」「そこに近づくために…」の3つについて考えていこうと思います。今日のお話に出てくる本橋選手が思う「現状」「理想」「そのために…」について、後で皆さんに聞きたいと思いますので、そんなことに注目して読んでみましょう。

(範読)

思考ポイントを絞るために、「現状」「理想」「そのためには」に注目するように声かけをしてから範読を行う。

T：はじめ、本橋選手について考えていこうと思います。カーリング選手の本橋選手は、一生懸命練習に取り組んでいましたがなかなか勝てない期間が続きました。そこで、「本橋選手は、どういうポジションになろうと決意しましたか？」

S：リザーブ。

T：そうです。チームの控えに回りました。そこで、皆さんに質問です。本橋選手はどのような想いでリザーブに回ったのでしょうか。班メンバーと1分くらい話してみましょう。

< 考えの共有 >

S：後輩たちのためにも、経験を積ませてあげる。

S：チームの勝ちを優先して決めた。

S：今後のカーリング界のために後輩たちに譲った。

S：試合に出たいけど、勝利のためには必要な決断だった。

(1分後)

T：では、聞いてみたいと思います。どうですか。

S：後輩たちに託す想いでリザーブに回ったと思います。

T：どんなことを託すのかな。

S：チームにプラスになるように後輩たちに譲ったと思います。

T：後輩たちに譲ることがなんでチームのプラスになるのだろう。

S：後輩たちに経験を積ませることを最優先したのだと思います

後輩たちを含むチームのために考えた決断だったという意見が多く挙がった。

T：今、後輩たちについて話してくれていますが、同じような考えを話した人はほかにいますか → (多数が挙手していた)

T：では、その意見とは少し違うことを話した人はいますか

S：自分だけが強くなってしまうと、チームとして成長できないから。チームで成長するために、リザーブになったと思う。

T：「自分だけが」と言いましたが、本橋選手としての気持ちはどうだったのでしょうか。教科書にも書いてありましたが、本橋選手は4つのポジションを唯一全てできます。もし自分だったら、どうしますか。

主人公は、本当は試合に出たい思いが強いことに気付かせ、その葛藤について揺さぶりをかける。

S：絶対イヤです。

主人公の状況を自分ならどうするかを素直に考えて発言している。(視点2)

T：どういうことですか。

S：試合に出て勝ちたいからです。

T：本橋選手も、「本当は自分も試合に出たい…」と書いてありました。勝ちたいという目標に向かって考える中で、本橋選手はチームのためを考えると、自分も本当は出たいという考えが両方あったようです。どちらの考えもあったのかもしれませんが。

T：ここからは、自分たちの学校生活の中で考えていこうと思います。今のお話はチームに注目していますが、皆さんの所属しているチームは例えば何がありますか。

S：クラス、部活、学年、学校、川崎市、神奈川県

予想される内容のカードを準備し、板書の時間を減らした。

T：ここからは、自分の学校生活について考えます。理想の姿として、チームにどんな人がいてほしいと思いますか。

「FigJam」の付箋を活用する

チームにどんな人がいたらいいと思いますか (2枚)

失敗して落ち込んでいたら励ましてくれる人。

前向きになれるような言葉をかけてくれる人。

励ましたりしたり、声掛けをしたりができる人。

自分から辛い役割や大変な役割を担ってくれる人。

明るい言葉かけができる。

チームにどんな人がいたらいいと思いますか (9枚)

・サポートしてくれる人

・何でも全力でやる人

・健康な人

チームを引っ張ってくれる人

元気で明るい人

・アドバイスをすることができる

・だめなことはだめだと注意することができる

・なにが失敗しても「次はできるよ!」と励ましてくれる人

・支えてくれる人

・チームを1番に考えてくれる人

・ムードメーカー

自分なりにさまざまな場面をイメージして、理想の姿を考え記入していた。

画面を見やすくするために、矢印の集合サークルを活用した。

集合

1班

自分の気持ちをお互いに伝え合える人

一緒にいて心強い人

2班

笑いが取れる人

3班

自分の役割をしっかりと果たしてくれる人

4班

楽しい声をかけてくれて、物向きで、想像力がある人

5班

自分の役割をしっかりと果たしてくれる人

6班

自分の役割をしっかりと果たしてくれる人

7班

自分の役割をしっかりと果たしてくれる人

8班

自分の役割をしっかりと果たしてくれる人

9班

自分の役割をしっかりと果たしてくれる人

< 考えの共有 >

T : いま貼り付けた考えを理由も加えて班内で伝え合しましょう。

S : 失敗して落ち込んでいたら励ましてくれる人と書いたのは、不安なときに背中を押してくれる人がチームにいたらいいなと思ったからです。

S : 前向きになれるような声かけと書いたのは、いつでもポジティブな考えをもったほうが目標に向かっていきやすいと思ったからです。

S : 明るい声かけについては、気分やモチベーションをあげると自分たちのよい部分が出せると思ったからです。

S : 自分からつらい役割を担ってくれる人と書いたのは、面倒とかキツイとか思ったときに、自分からそれをやれる人がチームにいたらいいと思ったからです。

自分の言葉で「チームにいたらいいと思う人」について説明している様子が見られた。

T : 次に、他の班の意見も見ていきたいと思います。この意見「いいな」と思ったものがあれば1つイイネスタンプを押してみましよう。

< 全体で共有 >

T : 何かこれいいなと思った意見がありましたか。

S : 自分の気持ちがわかってくれる人。

T : これについては、どのような意味ですか。

S : 困っているときや助けてほしいときに寄り添ってくれる人です。

S : 優しいとか、気遣うことのできる人のような意見が多いと思います。

集団の中の役割について、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。(視点1)

T : 今日は本橋選手の気持ちに触れながら、自分たちのチームにとっての「理想の姿」も考えました。最後に、その理想の姿、目指す姿に近づけるために、自分自身ができることや大切にしていきたいことを考えてプリントに記入してみましよう。

T : 例えば、クラスというチームであれば、よりよいチームに近づくために自分が学校生活の中で果たすべきものは何かなど、具体的に考えてみましよう。

<振り返りの内容>

- 自分はチームを引っ張ることはできないけれど、チームのことを考えて行動したり、優しくしたりすることはできるから、自分のできることを精一杯やろうと思いました。
- 自分が今チームのなかでどのような役割なのかをはっきりとさせ、喜びとか、難しさとかを共感できるようにしたいと思いました。
- 自分のことだけでなく、周りの人のことを最優先で考えて過ごすことはすごくよいことだと思いました。本橋選手のような考え方をみんながもつとそれぞれが考える理想の姿に近づいていくのかなと思いました。
- 本橋選手のようなチームに気遣いができるような人になりたいと思いました。理想の姿に近づいていくように、もっとよりよいクラスを目指したい。
- 自分は理想のチームに頼れる人がいたらよいと考えていたので、自分が周りから頼ってもらえるような人になれるように、頼まれた仕事などをしっかりと取り組んでいきたいと思いました。
- チームだけでなく、自分自身もよりよくするために、自分とチームへの理解を深めることが大事だと思いました。
- 本橋選手は「自分も試合に出たい」という想いをもちながら、仲間の成長に貢献していることがすごいと思いました。私も仲間の成長に貢献できる人になりたいです。

自分自身の所属する集団に置き換え、集団の中での自分の役割や責任について考えている。(視点2)

Ⅲ 考察

問題解決的な学習を意識した授業展開について

今回、「現状」「理想の姿(目指したい未来)」「そこに近づくためには」の3つのポイントを意識させて授業を行った。授業のはじめに、この流れで進めることを示したことで、子どもたちが何を考えるとよいのかが分かりやすくなっていったと感じた。また、本時のねらいを達成させるために、何を大切にすべきか、今後の生活のなかで具体的にどう行動すべきかを考えるきっかけをつくることで、「よりよい学校生活の充実」につながっていく流れができたと思う。この問題解決的な学習の展開方法は、他の教材でも実施可能である。(例:「みんなで成功させよう」(よりよい学校生活、集団生活の充実) 光村図書)

個人の思考表現と意見共有のために、「Fig Jam」の付箋を活用した。まず、「チームにどんな人がいたらよいと思いますか」という理想の姿を考え、次に、自分と近い考えや異なる多様な考えに触れることができるように工夫した。アイデアやそれぞれが想像する未来を共有すると同時に、なぜその考え

なのか、理由を説明する姿が見られた。

子どもたちが主体的に理想の姿を考え、そこに近づいていくためにはどのようなことが大切になるのか、自分たちから発信して考えを共有し、問題解決的な学習を意識して授業実践を行ったことで、その後の学校生活や生き方に生かすことにつながると感じた。今後の課題としては、より自分たちの生活にどうつなげていくか、生かしていけるかを「具体的な行動」として考えさせることだと考える。本時では、抽象的な振り返りを記入している内容もあり、日常生活とつながる具体的な行動を考えさせることで今回の「そこ(理想の姿)に近づくために」の項目がより深まっていくのではないかと考える。また、道徳教育との関連を図りながら、教育活動全体を通じて取り組むことも有効になると思う。